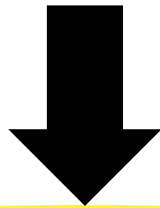


田原本町における公共交通の全体像

- ・現状として、町内における交通移動手段はタクシー以外に存在していない
- ・タワラモトンタクシー利用料金助成事業の実施
- ・タワラモトンタクシー利用料金助成事業については、利用枚数の制限や対象者の制限もあり、**田原本町の公共交通関連施策としてはこれだけでは不十分**

第4次総合計画
交通環境の充実



免許返納者
町外からの来訪者

新たな公共交通導入の検討

町内全域の公共交通空白地域の解消に向け、
老若男女や町外からの来訪者を含め誰でも乗れる新たな移動手段が必要

デマンド型交通

町内全域の公共交通空白地域を解消させるため、将来的には町内全域への拡大を前提としたデマンド型交通を町の北東エリアでまず始める

定時定路線型交通

空白地域のうち、町内で比較的人口が密集しているエリアについては、定時定路線型の停留所を設け、田原本駅や公共施設、商業施設といった目的地にも停留することで、特に大きい公共交通需要や町外からの来訪者のニーズをカバーしていく

これら2つの施策とあわせてドアツードアのきめ細やかな移動を支援するタワラモトンタクシー事業を引き続き実施し、組み合わせることで当町としての公共交通を展開していく

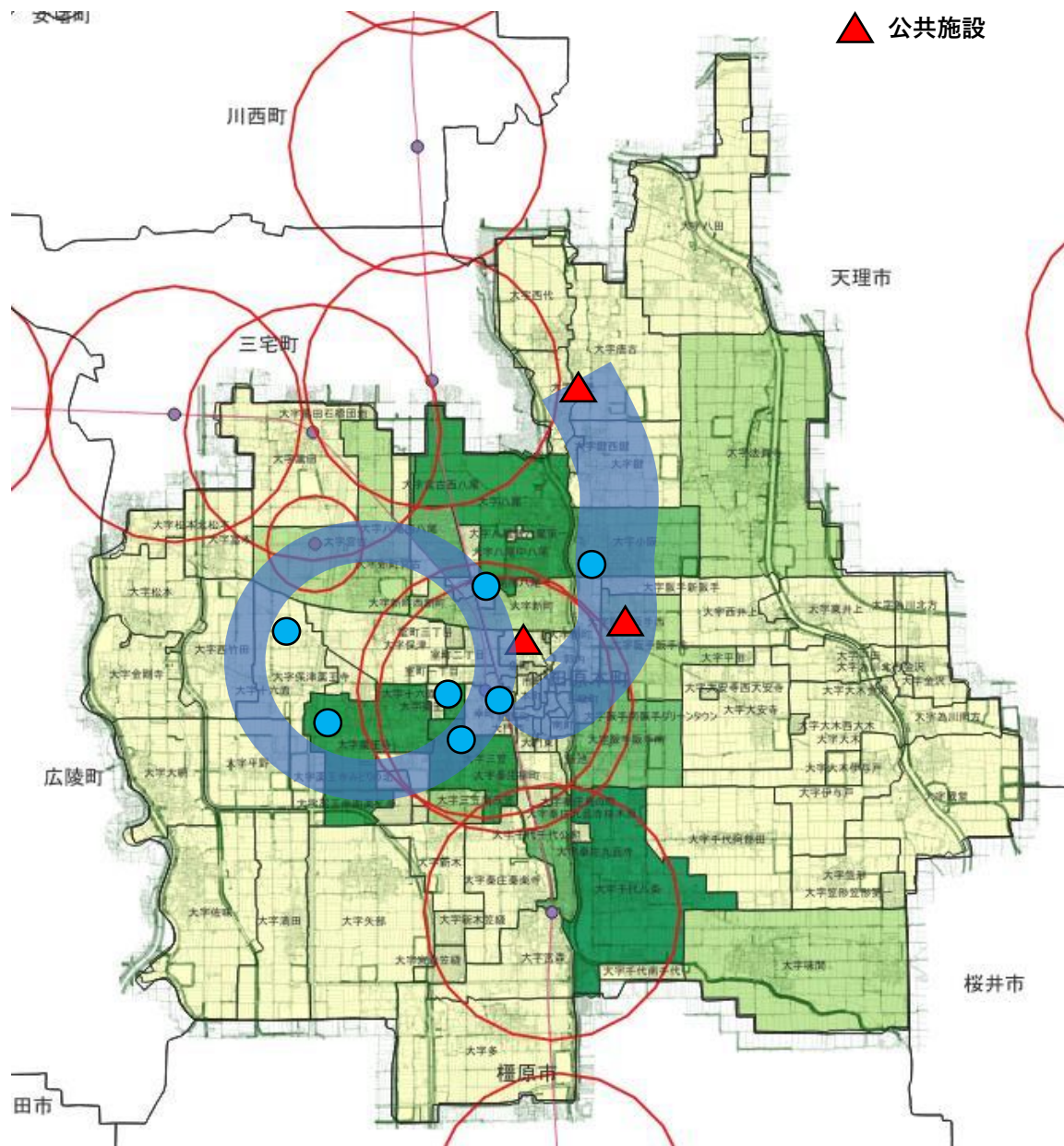
デマンド型交通に導入する車両について

- 当町としては、以下4点の理由から、軽自動車（EV）の導入を進めたい。
 - ①従前の乗合型デマンドタクシー「ももたろう号」の乗合人数平均が1.1人程度であり、軽自動車でも定員上の支障が無い上、費用を格段に抑えられる点。
 - ②当町の有する狭隘な道路の通行には、軽自動車が最も望ましい点。
 - ③「ももたろう号」の反省から、通常タクシーと全く見た目の異なる車両にする必要があり、軽自動車は町民への親しみやすさやPRの上でも寄与する点。
 - ④ゼロカーボンの取組を進める当町としてはEV車両を導入したいが、その場合は（①の費用面や、乗降のしやすさも含め）軽自動車に事実上絞られる点。
- 前回協議会でご指摘のあった「広さ」「乗り心地」「障がい者対応」については、「広さ」は乗車定員の違いも踏まえ、軽自動車と普通車で1人あたりの広さは変わらないものと認識。「乗り心地」も今般の軽自動車と普通車に差は無いものと認識。「障がい者対応」については、事前予約の段階で車いすの有無を確認の上、車両後部に収納する等の対応を行う。
- 他地域の事例では、乗用事業として、京都府内で昨年からは軽EVタクシーが運行中。また、自家用有償旅客運送での事例が複数あり。

定時定路線停留所（案）

● 駅、商業施設

▲ 公共施設



公共施設
田原本町役場
青垣生涯学習センター
唐古・鍵遺跡史跡公園

駅、商業施設
田原本駅
オークワ十六面
万代
ローソン八尾
おくやま三笠
オークワ田原本店
ローソン薬王寺

青色の太線については、交通空白地域の内、比較的人口が密集しており、運行を想定しているルート